

別冊 協会ニュース 傑作選

～ガイドの役に立つために～



はじめに

堺観光ボランティア協会発行の協会ニュースは、2024年12月号で331号になります。毎月毎月、私たち広報部が協会員の皆様に呼び掛けて、記事の掲載に協力していただいています。皆さんのおかげで、毎月楽しい、面白い、そして為になる記事が集まってきます。今回の「協会ニュース別冊」はその膨大な量の記事の中から、人気のあった記事や、ガイドに役にたつような記事を抜粋して、「傑作選」としてまとめてみました。記事の選択では、広報部会においても当然意見が分かれて、喧々諤々で決定しました。懐かしい記事もあるかもしれませんが、初めて読む方もいらっしゃるかもしれませんが、そして新しい発見があるかもしれませんね。

ページ	別冊 協会ニュース 傑作選 目次		
1	2020年7月号(278号)	樽野 美千代	堺の町名の由来 堺区
2	2020年11月号(283号)	樽野 美千代	堺の町名の由来 北区 東区
3	2021年3月号(287号)	樽野 美千代	堺の町名の由来 中区 南区
4	2024年10月号(329号)	樽野 美千代	堺の名町の由来 西区 美原区 堺市の拡大
5	2023年4月号(311号)	戒田 啓二	堺事件の真相に迫る ①時代背景
6	2023年5月号(312号)	戒田 啓二	堺事件の真相に迫る ②時代背景～堺事件勃発
7	2023年6月号(313号)	戒田 啓二	堺事件の真相に迫る ③堺事件から何を学ぶか
8	2018年6月号(253号)	木村 義穂	≪特集≫大和川付替え300年に想う！
9	2018年6月号(253号)	木村 義穂	≪特集≫大和川付替え300年に想う！
10	2018年7月号(254号)	木村 義穂	≪特集≫大和川付替え300年に想う！
11	2018年8月号(255号)	木村 義穂	≪特集≫大和川付替え300年に想う！
12	2015年12月号(233号)	山田 武彦	ガイドの豆知識① 南宗寺の建物の二重構造について
12	2022年1月号(296号)	野澤 昭一	伸庵でタイトル戦があった
13	2012年8月号(195号)	川辺 葉積	行基さん
14	2021年10月号(293号)	川上 浩	ディープな堺勉強会 Sacay ベイエリア探訪ウォーク
15	2016年10月号(233号)	田辺 謙二	堺市西区歴史探訪
16	2016年11月号(234号)	岡崎 形成	魅力てんこ盛りの美原区③ 美原八景
16	2017年1月号(236号)	江川 栄一	魅力てんこ盛りの美原区④～美原区域の中世の城砦
17	2021年4月号(299号)	小川 正夫	『幻の陶器の里』ご紹介 ①陶工の首長の墓 湯山古墳
18	2009年1月号(152号)	松井 彰夫	土居川公園の地下へ行って来ました
19	2017年1月号(236号)	細谷 利明	寺山南山古墳現地説明会に参加しました
19	2021年4月号(287号)	杉本 信子	堺唯一の総理大臣 鈴木貫太郎さんと私のまち久世(くぜ)
21	2022年1月号(296号)	土井 健一	堺の塩湯(潮風呂)の起源から現在まで
22	2021年2月号(285号)	柿澤 和代	石器時代、堺に人がいた！「南花田遺跡」
23	2022年1月号(266号)	土山 裕美	私の「推し」里程碑(りていいし)

堺の町名の由来

堺区

【樽野 美千代】

三宝村：「南島新田・山本新田・平田新田・弥三次郎新田・塩浜新田・若松新田・松屋新田の7ヶ村が合併して成立」とあり、村名は成立時人口を有していたのが南島新田・山本新田・松屋新田の3ヶ村のみで、ともに宝暦年間(1751~1763)に開発されたことから名づけられた。

海山町：開発者山本茂兵衛と海部屋甚兵衛の苗字から一字ずつとって海山という地名ができたのだと考えられる。江戸時代に開かれた新田には開発者の名前がつけられることがある。

南北半町*1：元和の町割りの時、縦の長さが他の町よりも短くなったので半町。

南北旅籠町*2：堺の町の南北の出入り口。北は旅籠、南は旅籠と書く(籠が正式の字体で、籠は略字)。

旅籠は食事付きの旅人宿のこと。

桜之町、柳之町：それぞれ桜の木、柳の木がたくさん植わっていたことから。

綾之町、錦之町：15世紀の応仁の乱を逃れて、京都から織物師が堺に移住、この地で綾織り錦織りを始めた。のちに京に戻った職人たちは応仁の乱の西軍の陣がおかれたあたりに住み、西陣織と言われるようになった。

九間町*3：奈良時代、弘法大師が唐から帰国し、九間四方の堂(九間堂)を建立したことに由来。

神明町：奈良時代初めの創建といわれる神明神社(菅原神社に合祀)が当地にあった。

宿屋町：旅人の宿場町で、宿屋が多かったことに由来。町内には小西姓が多く戦国時代のキリシタン大名小西行長一族が居住したという。

材木町：戦国期から見える。江戸期の堺の中心産業のひとつ、材木商の集住地だった。

車之町：戦国期から見える町名。「車屋本」で知られる有名な能楽者、車屋道晰(どうせき)がこの地に住んでいたことに由来。

櫛屋町：堺名物、和泉櫛を扱う櫛問屋が多かったことに由来。

戒之町：戦国期から見える町名。当地にあった戒神社に由来。

熊野町*4：もとは湯屋(ゆや)町といい、湯屋(風呂屋)が多く並んでいたことから。明治5年、当地にあった熊野神社にちなみ「熊野」に改字。読みも次第に「くまの」に変わったが、小学校などに「ゆや」の読みが残っている。

市之町：戦国期からの町名。摂津と和泉の国境であった大小路筋に面し、堺の町の中心地で、いろいろな「市」が開かれたことに由来するようだ。

甲斐町*5：戦国期からの町名。神功皇后がこの地に「甲(かぶと)」を納めたことに由来するらしい。大商人が集住する金融街だった。

大町*6：富裕者が多く住み、身代(=財産)の「大なる町」というところから名づけられたようだ。

宿院町：室町期から見える町名。当地にある、住吉大社の頓宮(お旅所)を宿院といったことに由来。

中之町：戦国期からの町名。昔の堺の町は大小路筋を境に北荘と南荘に行政区域が分かれていて、当地は南荘の中央に位置したことに由来。

少林寺町・寺地町：少林寺があること。また、寺地町はかつて少林寺の寺地(境内地)であったことに由来するようだ。

新在家町：南荘にあった本在家町に対し、ニュータウンという意味で名づけられたらしい。現在の新在家公園は、空襲前にはつば市のお店があったところ。

【読み方】*1 南北半町(はんちょう)、*2 南北旅籠町(はたごちょう)、*3 九間町(くけんのちょう)
*4 熊野町(くまのちょう)、*5 甲斐町(かいのちょう)、*6 大町(おおちょう)

北区

北区は JR 阪和線の東側です。(三国ヶ丘駅付近で堺区が阪和線の東側に広がっていますが、これは大正～昭和にあった榎町のなごりのようです)大阪メトロ御堂筋線は、昭和 62 年(1987)になかもずまで延伸してきて北区内を走っています。明治 22 年(1889)4 月 1 日、町村制施行で、船堂・花田新田・庭井新田・萬屋新田・浅香山・大豆塚・奥村・北花田村の 8 ヶ村が合併して五箇荘村になり昭和 13 年(1938)から堺市に。このうちの浅香山は、角川版の地名辞典によると、奈良時代からみえる地名で、摂津国住吉郡、浅鹿・朝香とも書き、「万葉集」には弓削皇子の歌として「夕さらば 潮満ち来なむ住吉の 浅鹿の浦に玉藻刈りてな」「行きて見てくれば 恋しき浅香潟 山越しに置きて寝かてぬかも」とあり、このあとも浅香の浦は多くの歌に詠まれ、古くから「浦」として有名でした。聖徳太子の伝記を書いた本に香木が当地の浜に打ち寄せられたことにちなんでつけられたとあるそうです。東浅香山町は、もとは堺市浅香山でしたが、西側の浅香山町と区別するため東浅香山町と改称しました。

大豆塚町は大きな豆の塚と書いて「まめづか」と読みます。角川版の地名 事典では、初見は永禄 12(1569)年 8 月の「今井宗久禁制案」(今井宗久の定めたきまり)で、さらに「天正 11 (1588)」年 8 月秀吉は今井宗久に当村のうち 157 石余を知行地として与えている」「寺院に浄土真宗大派＝大谷派＝東本願寺派西願寺がある」と書かれています。

また堺区に東雲西町、北区に東雲東町があります。もとは堺市向井町字北庄の一部。大正 11 年(1922)東雲町となり、昭和 25 年(1950)に東西に分かれました。阪和線を横断する地下通路と東雲公園があります。

東区

東区はもとの南八下村・日置荘町・登美丘町から成立しています。登美丘町は昭和 25 年野田村と大草村が合併して成立。町名は地域住民からの懸賞募集によるものです。東区のホームページによると「合併委員会が新しい町名を募集したところ、野田村字西野の木村亀次さんの名づけた登美丘町に決定しました。(中略)丘陵地の景色の良い所で、この丘に登ると眺めも心も美しくなるとの意味がこめられていました」とのことです。

角川版の地名大辞典で、野田村は「明治 22 年～昭和 25 年。はじめ丹南郡、明治 29 年からは南河内郡に所属。北野田・南野田・高松・丈六・西野新田(のち西野)の 5 ヶ村が合併して成立」しました。

同じく大草村は「関茶屋新田・高松新田・草尾新田の 3 ヶ村が合併して成立。村名は当地域が近世の開拓前において「大野の芝」と総称されていたこと、また合併 3 ヶ村のうち草尾新田が最も大きい村であったことから、住民の希望により名づけた。昭和 6 年頃草尾から起立した大美野を加え 4 大字となる」野田村に高松があるので、高松新田は中茶屋と改称しました。

草尾は元禄 11 年(1698)から武蔵国の浅田喜兵衛・太田新蔵が開拓を始め、同 12 年踞尾(つくの)村の北村六右衛門、草部村の大塚吉右衛門があとをつぎ、同 15 年(1702)完成。新田開拓者である二人の居村の草部・踞尾両村の 1 字ずつをとって草尾と名づけました。江戸時代は煙草が名産品でした。

大美野は新しくつくられたまちです。昭和 6 年(1931)頃完成、もとは大草村草尾の一部。関西土地(のち関西不動産)という民間会社が大がかりな宅地開発を計画し、社員をヨーロッパにおくってまちづくりを視察させ、噴水を中心とした放射状の街路、平均面積 100 坪、生け垣に囲まれた広い庭のある住宅が並んでいます。代替わりで土地が売られてそのあとに 6～8 軒の住宅がたてられることがありますが、大邸宅、建築家が建てたと思われる住宅も残っています。大美野という地名も懸賞募集でつけられた名前で、大草村と野田村の「大」と「野」を美しく結ぶという意味です。

中区

八田寺*1：「現在の堺市八田寺町、堀上町、毛穴村の東に位置し、村域は丘陵で占められる。

もと行基創建と伝える蜂田(はちた)寺＝華林(けいりん)寺があったことにちなみ、蜂田寺村と記したという」大鳥郡蜂田郷内に成立した荘園で、現在の八田寺町・八田北町・八田南之町・八田西町・東八田・平井あたり。八田庄とも書かれた。地元の方は行基さんが生まれたのもここではないかとおっしゃっていました。

土師：実際に土師氏が住んだことによります。「奈良期～平安期に見える郷名。土師氏には四腹(土師・大枝・菅原・秋篠)あるが、大枝朝臣の姓を賜った「毛受腹」の土師氏が当郷を本貫としていた百舌鳥土師氏にあたと考えられる。古代の郷域は、現在の土師町・土塔町・百舌鳥陵南町・百舌鳥梅町などの一帯と推定できる」とあります。

津久野：もと踞尾と書かれていました。豊臣秀吉が踞尾村の納める年貢から西本願寺(堺別院)280石 堺の16寺[天神常楽寺●220石、南宗寺110石、向泉寺●90石、大寺(念仏寺)●80石、禅通寺●(少林寺に合併)60石、北十万(悲田院)50石、旭蓮社40石、海会寺30石、大安寺29石あまり、顕本寺27石、経王寺26石、極楽寺20石、金光寺●(宝珠院に合併、藤のお寺として有名)19石、引接寺●(廃絶、正法寺に合併)10石あまり、光明院●(荒廃)18石、櫛笥寺1石あまり、(●は現在廃寺)]を与えました。寺社領分は合計1110石となり、踞尾村は大きな村だったことがわかります。これは江戸時代にも引き継がれ、このほかに旗本小出氏(陶器藩主)の領地もありました。農業のほか、絞り油・木綿織り・晒し業もさかんだった豊かな村です。

【読み方】*1 八田寺(はんだいじ)

南区

南区の魅力のひとつは静かで木々の緑に満ちた公園と緑道です。泉北ニュータウンは大阪府が計画的に作ったまちなので、計画的に緑道や広い公園がつくられました。

宮山台：西南部の山林に境内をもつ多治速比売神社にちなむ(まち開きは昭和42年・1967年 泉北ニュータウンで最初)

高倉台：高蔵寺があり、周辺地域が高蔵寺と呼ばれていた(同 昭和47年・1972)

桃山台：造成前、丘陵一帯に桃が栽培されていたことから(同 同年)

原山台：地区内の地名からとった。造成前は山林地帯(同 昭和49年・1974)

新檜尾台：檜尾は現光明池地区の大半をしめていた字の名。現在も同地区の東と西北にある(同 昭和54年・1979)などです。鎌倉時代以来の古い歴史をもつ南区の旧村では、和田・釜室・富蔵・大森・泉田中・畑など。大森は、江戸時代後半下総(しもうさ＝千葉県北部)国の関宿(せきやど)藩久世氏がおさめていて、和田谷(にぎただに)6ヶ村(上別所・下別所・上・檜尾・大森・野々井)のひとつ。明治22年美木多村の大字となり、昭和31年には福泉町になっています。

和田：みきたでは読みにくいので、字を変えたようです。

富蔵：14世紀には見える地名で、江戸時代には太平寺・大庭寺などと大庭寺(のちに伯太)藩となり、上神谷(にわだに)の妙見さんとして有名な日蓮宗感応寺があります。旧村の地名に多い「蔵」「室」は、百舌鳥古墳群が作られる5世紀中頃から、現在の泉北ニュータウン一帯に朝鮮半島から須恵器(硬い素焼きの灰色の土器)を焼く技術を持つ人たちが住みつき、須恵器を焼く窯や保存用の倉庫がつくられたことによるとのことです。鎌倉時代～戦国時代、若松荘(わかまつのしょう)という皇族のもつ荘園があり、京都の臨川寺に寄進されました。若松荘は現在の太平寺・大庭寺・豊田・梅・若松台・片蔵・泉田中・富蔵・釜室・逆瀬川・畑・鉢ヶ峰付近です。

西区

「西区の西部は大阪湾に面しており、臨海部には重化学工業など大規模な工場が集まり、野球場・芝生ひろばなどのあるみなと堺グリーンひろばや堺泉北港、浜寺公園と泉北臨海緑地に挟まれた浜寺水路、石津川や百済川等の河川、鶴田池や万崎池等の多数のため池など、多様な水辺空間を有しています」とあります。

角川日本地名大辞典 27『大阪府』によると、鳳の名前が頭につく東西南北中町は、もとは大鳥と書かれ、奈良時代～平安時代には成立、奈良時代(8世紀)の資料に、地名の由来と考えられる大鳥連(おらじ)という豪族の名前が出ています。鎌倉時代には大鳥荘という荘園になり、皇室関係者が所有者だったようです。江戸時代から明治22年(1889)まで大鳥村、堺の町の周辺で堺奉行の領地でした。木綿作りや紺染め・綿糸・綿織物などがさかん。明治22年の市町村制で、大鳥・北王子・長承寺・野代の4ヶ村が合併して鳳村に。大鳥神社などで有名な大鳥をとり、吉字の鳳をあてました。奈良時代の高僧行基が大鳥大社のなかに神鳳寺というお寺を建てたことも関係があるかもしれません。大正9年(1920)鳳町、昭和4年今のJR阪和線開通、同17年堺市に。同18年鳳各町や浜寺船尾町、下田町になりました。

美原区

美原区はもとは美原町。小寺・大饗(おわい)・菩提は、もとは河内国八上郡のうち。はじめ幕府領、17世紀の終わりに武蔵国川越藩秋元氏の領地となる。昭和33年、一部は堺市、一部は美原町となる。平成17年(2005)2月1日堺市と合併、平成18年(2006)4月1日、堺市は政令指定都市となり、美原区となる。

小寺：古くは古寺と書いた。地名は、当地に明徳年間(14世紀終わり、南北朝時代)に焼失した長和寺というお寺があったことによるという。現在も高野山真言宗平松寺、浄土真宗本派大円寺、時宗照林寺、融通念仏宗西方寺がある。

菩提：8世紀(奈良時代)光明皇后によって、河内国分尼寺が創建されたという伝承があり、お寺を開いた天竺(インド)僧菩提遷那(ぼだいせんな)にちなんだ地名という。

大饗：8世紀中頃(奈良時代)、称徳天皇が紀伊の国に行かれた帰り道で、当地で饗宴が行われたのが、地名のおこりという。楠木氏の一族和田氏の本貫地。江戸時代、東大饗村、西大饗村に分かれていたが、明治8年、合併して大饗村。同22年南八下村の大字となる。昭和33年もとの東大饗村は、美原町大饗となった。

堺市の拡大

1889年(明治22年)	環濠内が堺市になる＝旧市内と呼ばれる地域
1894年(明治27年)	向井村(北庄村+中筋村)七道
1920年(大正9年)	湊町・向井町
1925年(大正14年)	舳松村
1926年(大正15・昭和元年)	三宝村
1938年(昭和13年)	五箇荘村・金岡村・百舌鳥村・神石村
1942年(昭和17年)	浜寺村・踞尾村・鳳町・八田荘村・深井村・東百舌鳥村
1957年(昭和32年)	北八下村
1958年(昭和33年)	南八下村・日置荘町
1959年(昭和34年)	泉ヶ丘町
1961年(昭和36年)	福泉町
1962年(昭和37年)	登美丘町
	2005年(平成17年) 美原町

参考文献 角川書店『角川日本地名大辞典 27 大阪府』1983(昭和58)年
平凡社『大阪の地名Ⅱ(日本歴史地名大系28)』1986年(昭和61)年
堺市のHP『堺区 地名の由来が知りたいんだけど』 平凡社『大阪の地名Ⅱ』

堺事件の真相に迫る ①時代背景

【戒田 啓二】

堺事件とは、1868年（慶応4）に堺で起きた土佐藩士とフランス軍艦水兵との衝突、およびその事後処理にまつわる事件です。堺港でフランス兵11人が殺傷され、堺の妙國寺で土佐藩士11人が切腹し、双方で22人もの死者が出たという大事件です。

私達「堺事件を語り継ぐ会」は、生麦事件はよく知られているのに堺事件はどうして知られていないのか、どうして教科書に載っていないのか、といった素朴な疑問から出発しました。

明治維新・日本の近代化は、坂本龍馬や西郷隆盛といった「英雄」たちによってのみ成し遂げられたのではないのです。時代の荒波の中で非業の死を遂げた「土佐十一烈士」、生き残った「九烈士」、神戸外国人墓地に眠る全員二十代のフランス軍艦水兵に思いを馳せていただければ幸甚です。

では堺事件はどうして起きたのか、欧米列強の動向から時代背景を見ていきましょう。幕末から明治維新にかけての日本の歴史の転換は、徳川幕府 VS 天皇を中心とした政治勢力の国内戦争といった面からだけでは捉えきれない、列強の植民地化計画・覇権争いがありました。その列強の野望の鍵が正に日本だったのです。

- ・1806年（文化3）露寇事件：徳川幕府が初めて外国との紛争を経験したのは、ペリーの浦賀来航のように思われがちですが、浦賀の50年前、露軍艦が北海道エトロフ島等の幕府出先機関を襲撃し焼き払うという事件がありました。幕府はなすすべなく敗走し、幕府の権威失墜の引き金となります。その後、ロシアは1854年（嘉永7）ロシア艦隊司令長官プチャーチンが軍艦ディアナ号で大阪湾に来航。1861年（文久元）には極東進出の野望からロシア軍艦が対馬に現れイギリスと対峙します。



- ・1853年（嘉永6）ペリー浦賀来航
- ・1854年（嘉永7）日米和親条約 下田と箱館開港
- ・1858年（安政5）日米修好通商条約 神奈川（下田は閉鎖）、長崎、新潟、兵庫を開港、江戸と大坂を開市。同様の条約を、イギリス・フランス・オランダ・ロシアとも結ぶ。（安政五カ国条約）

なお、寺石正路著「明治元年土佐藩士泉州堺烈挙」には、この時、幕府とアメリカ領事ハリスの間では堺開港の内諾があったこと、然るに条約の規程に居留地より十里以内に外国人遊歩を許すとの事があり、仁徳・履中・反正の三陵を始め数多くの史跡がこの圏内に含まれることから、前約を取消したと書かれています。

アメリカでは、1861年～65年の南北戦争が終結し、大量の武器が余り、イギリスを中心とした武器商人が幕府、薩長双方に暗躍します。

参考：寺石正路「明治元年土佐藩士泉州堺烈挙」 大岡昇平「堺港攘夷始末」

NHK 新幕末史グローバルヒストリー NHK 英雄たちの選択

堺事件の真相に迫る ②時代背景～堺事件勃発

- ・列強の中で最強は7つの海を制し、1840年からのアヘン戦争に勝利したイギリス。1864年(元治元)イギリスは「日本は中国市場を保護する盾になる」として、海上封鎖・京都制圧・江戸城攻撃を内容とした対日全面戦争を計画しますが、これは財政負担が大きいとして後に放棄します。
- ・1866年(慶応2)第二次幕長戦争で敗れ窮地におちいった幕府はフランスに接近。翌年のパリ万国博に参加。フランスはイギリスに対抗して軍事顧問団を派遣してきます。その内の一人ブリュネは顧問団帰国後も日本に残り、五稜郭の戦いまで参戦します。

こうした列強の外圧の中、1867年(慶応3)12月7日幕府は安政五カ国条約後、延期していた兵庫を開港し、大坂を開市します。これに伴い結ばれたのは幕府が外国と結んだ最後の協定である遊歩協定「大阪表外国人居留する規則」です。筆者はこれが堺事件真相解明の最大のポイントと考えています。この規則第三条には「大阪在留外国人…境(さかい)市中は大和川の外なれ共、遊歩を免(ゆる)す。…外国人は大阪表において海陸共往来する事日本人同様差障(さしつかえ)なかるべし」とあります。

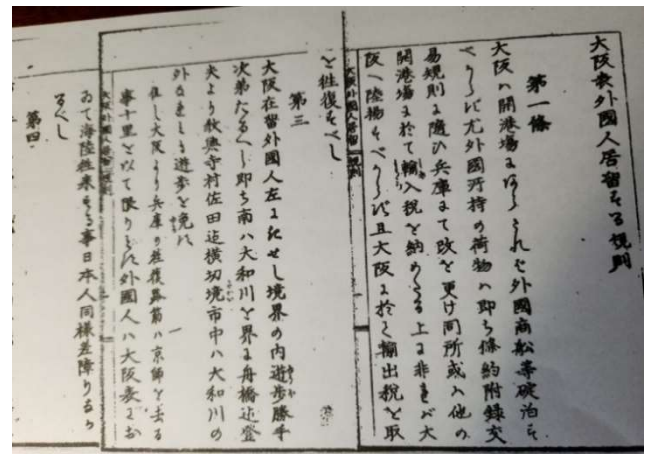
しかしながら、「王政復古の大号令」の僅か2日前、戊辰戦争勃発の一カ月前に制定されたこの規則が幕府や新政府によって土佐藩や堺の町民に周知されていたのか甚だ疑問です。

堺事件は、2月15日午前、旗艦ヴェニス号艦長ロア少将と兵庫副領事ヴィヨーが堺見物に外国事務掛宇和島藩士らと共に紀州街道を下り、大和川にかかった大和橋に到り、土佐藩士に追い返されることに始まります。先頭に立った土佐軍艦府大監察杉紀平太は事件翌日、外国事務総督伊達宗城(おねなり)に呼びつけられ、堺が遊歩許可内に入っていることを知らなかったのかと厳しく叱責されます。

それではこの時、箕浦猪之吉や西村左平次、土佐藩士は大和橋での宇和島藩士らとの口論の過程で堺が遊歩許可内であることを知り得たのではないかという疑問が出てきます。後年の土佐側文献、「靖国神社合祀高知県知事宛嘆願書」(土居盛義・明治25年)、「泉州堺土藩士烈拳実記」(佐々木甲象・明治26年)、「明治元年土佐藩士泉州堺烈拳」(寺石正路・昭和12年)、どれを見ても遊歩協定についての記述は一言も無く、「事件は仏人が不法である。安政条約によって、外国人は居留地十里以外に出る事は禁止となっている。それを破り仏人はほしいままに堺に上陸」と一貫しています。

これらから判断すると、土佐藩士は遊歩協定については、やはり知らなかったと理解するのが妥当と考えられます。

さて、いよいよ2月15日午後仏軍艦水兵が堺に上陸してきます。



大阪表外国人居留する規則

参考：寺石正路「明治元年土佐藩士泉州堺烈拳」 大岡昇平「堺港攘夷始末」

NHK 新幕末史グローバルヒストリー NHK 英雄たちの選択

佐々木甲象「泉州堺土藩士烈拳実記」 高田祐介「明治維新像の形成と地域の歴史意識」

堺事件の真相に迫る ③堺事件から何を学ぶか

フランス軍艦水兵は、ヴェニス号の大型ボート(8人)とデュプレックス号の蒸気ランチ艇(15人)2艘でやってきます。目的は「ロア少将と副領事に堺で乗船してもらうため」(フランス艦長の見た堺事件、プティトゥアール)であり、測量は「ランチ艇にとって十分の水深があることを大型ボートで確かめる」(同)ため、ランチ艇誘導のためでした。大阪開市に伴う協定により、航行に必要な水域の測量は自由になっていて、遊歩自由地域たる堺港の中の測量も許容範囲と考えられます。しかし、大岡昇平が指摘しているように、測量船が砲台下を測量し直し、台場を偵察していたとすれば重大な逸脱行為であり、箕浦猪之吉を苛立たせたのも事実ではないでしょうか。

さて、堺事件発生のきっかけは、ルムール、デュレル2人のフランス水兵が上陸し、土佐藩士が尋問、連行しようとするルムールが逃げ出したためであることは、日仏双方一致しています。

堺事件はよく「言葉の問題」と言われます。それはこの時ではないでしょうか。「俺達は上官二人を迎えにただだ。何もしていない」「二人はもう大阪に返っている。いつまで待っても来ない。さっさと船に乗って帰れ」こういった会話が成立していれば堺事件は起きなかったかも知れません。堺事件に「言葉の問題」はあったと言えるでしょう。

事件は、土佐藩士による発砲、フランス水兵11名の死亡、フランス政府の怒り・五カ条の要求、日本政府は各国に天皇政府承認を要請するための京都御所での天皇の公使謁見を急いでいる折、大坂と堺を鹿兒島が受けたような砲弾、焼夷弾で艦砲射撃されては堪らないという判断から要求を受諾、事件からわずか一週間2月23日妙國寺で土佐藩士20名の切腹を決定、11名切腹の後、フランスの申出により切腹中止、9名はその後四万十川西へ流罪、9月明治改元とともに発せられた恩赦令により赦免と目まぐるしく推移します。

そして、事件から50年以上経った1920年(大正9)土居盛義や谷干城(たてき)、高知県人の尽力により11名の靖国神社合祀が実現へと至ります。

それでは、私達は堺事件から何を学ぶべきでしょうか。それは1916年(大正5)寺内正毅首相が時の仏国首相クレマンソーに交渉した時の文に凝縮されているように思います。「明治元年の堺事件は、双方誤解に基づき遺憾多かりしも(中略)昔の恨は水に流し、両国互いに親和を表し、仏人も日本人も共に合祭し、其の公事に斃れたる(たおれたる)靈魂を慰すべしといふこととなり、仏国も之を領諾」

また、2022年11月神戸市立外国人墓地で行われました在京都フランス総領事館主催のフランス水兵慰霊式では参列されたフランス国防武官と陸上自衛隊陸佐が固い握手を交わされました。国を守る気概を持ちながら、国際交流・国際親善・国際平和に貢献していくことこそ堺事件の教訓ではないでしょうか。(完)



神戸市立外国人墓地慰霊塔

参考文献： 大岡昇平「堺港攘夷始末」中公文庫
 プティトゥアール「フランス艦長の見た堺事件」新人物往来社
 高田祐介「明治維新歴史像の形成と地域の歴史意識」

《特集》大和川付け替え300年に想う！

【木村 義穂】

現在、堺市と大阪市の境界線になっている大和川はおよそ300年前に付け替えられたものです。これは堺の歴史を紹介させていただく者ならば常識中の常識なのですが、付け替えを行った背景や工事内容や予想通りの成果が得られたのか等、振り返ってみましょう。

《河内平野の地形》

- ・河内平野は、北は淀川、南は羽曳野丘陵、西は上町台地、東は生駒山地に囲まれ、古代から内湖を形成するような低地帯が多く、勾配は東から西へ、南から北へ緩やかに下っている。
- ・付け替え前の大和川は笠置山地の都祁(ツゲ)村の高原を一つの水源として奈良盆地の多くの水を集めた後、生駒山地と金剛山地の狭間である「亀の瀬」を経て、大阪側に流れ込み、河内平野に入った大和川は石川と合流したあと玉櫛川や久宝寺川(長瀬川)に分流し、やがては大阪城北で淀川に合流していた。
- ・河内平野の北部は土地の傾斜も緩く、かつて湖だった所で淀川へスムーズに流れ込めない。
- ・雨が降り続き水かさが増すと溢れやすい上に、江戸時代に入ってから過去の戦乱の復興などに大量の材木を必要とし、上流で伐採されたため、保水機能が弱くなり土砂が流れ、下流では天井川状態で一層洪水が発生しやすくなっていて、度々の水害に悩まされていた。

《川違え運動と反対運動》

- ・幕府は川底浚渫や堤嵩上げなど施策を講じるも成果無く、地域の農民から大和川と淀川を切り離す事で根本的な解決案(大和川の付け替え)が出てきた。付け替え運動は明暦3年1657頃から表面化している。その中心となったのが今米村(現東大阪市)の中甚兵衛たちだった。
- ・付け替えを望んだのは川筋や池に接する東成、茨田、讃良、河内、若江、渋川、高安、大泉の八郡で、理由は従来からある田畑(本田)の改善や新田開発による地域経済の発展と、幕府の収入増に有効なことである。
- ・阻止しようとしたのは、付け替え予定案を示された新川用地に該当する村々と大和川に権利を持つ舟運業界で、次のような理由で反対運動を起こした。(促進派と反対派 図-1)「先祖伝来の田地が川底となる百姓は生活できない」が主たる理由でしたが他にも以下の反対理由があった。

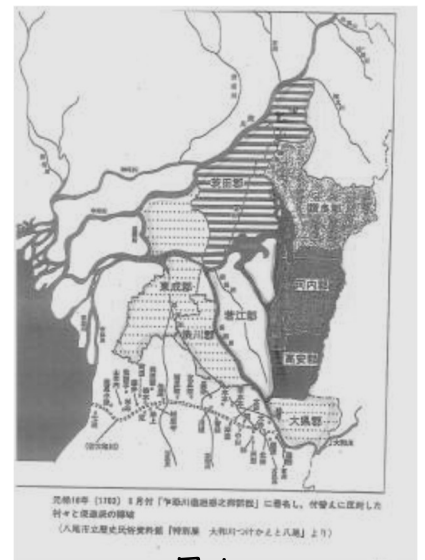


図-1

- 河内国は南が高い地形なので、地形にそぐわない横川となり、大雨が降ると南側は悪水が出る。
- 北側は旧川に水が行かなくなるので、用水不足になる。
- 東高野街道から紀州街道まで主要な街道が6筋も通っているが、分断され不便になる。
- 大阪から柏原までの舟運業は剣先船が通れなくなり、仕事にならない。

- ・付け替え促進派が大阪奉行所を通じて願い出れば、反対派は迷惑だと嘆願する。この繰り返しが約50年間続いた。その間幕府は河村瑞賢らに命じて治水工事を行ったが、元禄14年(1701)本年貢全面免除の村がでるほどの水害が発生し、元禄16年(1703)遂に幕府も付け替えを決断した。付け替え工事検討の担当者は大阪代官所の堤奉行万年長十郎で、中甚兵衛らから意見を聞き、工事に加わる

ように命じた。甚兵衛は嘆願のため19歳から16年も江戸に滞在した。

《工事施工》

- ・公儀普請として目付大久保陣兵衛忠香、奉行伏見主水爲信。助役として姫路藩本多中務大輔忠國によるお手伝普請の形をとった。上流舟橋村から川辺村までの5.7kmは公儀、そこから下流は姫路藩（15万石）とされ宝永元年（1704）2月27日着手された。姫路藩は河口から始めたが、3月21日藩主が死去し、工事が中断。4月1日新たに岸和田藩（5.3万石）三田藩（3.6万石）明石藩（6万石）が指名され姫路藩予定分8.6kmから1.1kmを差し引いた7.5kmを3藩の大名が2.5kmずつ分担することになった。（施工分担 図-2）

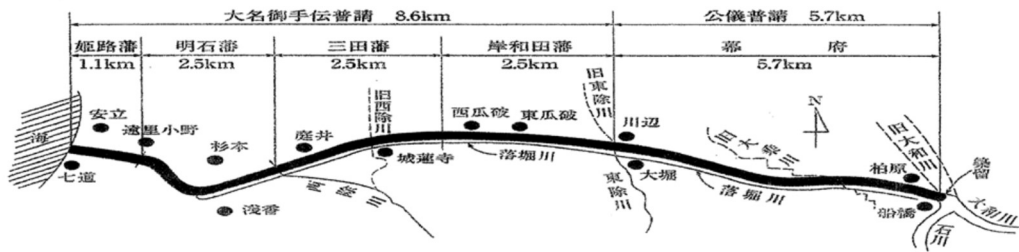


図 5.3.6 新大和川施工分担図

図-2

- ・工事は4月下旬に再開されたが6月28日になって付帯工事と姫路藩の未施工の工事を行うために新たに高取藩（2.5万石）と柏原藩（2万石）がお手伝大名として追加された。
- ・9月には新大和川で唯一の橋である大和橋が架けられ、10月13日に新川通しが行われ、完成した。

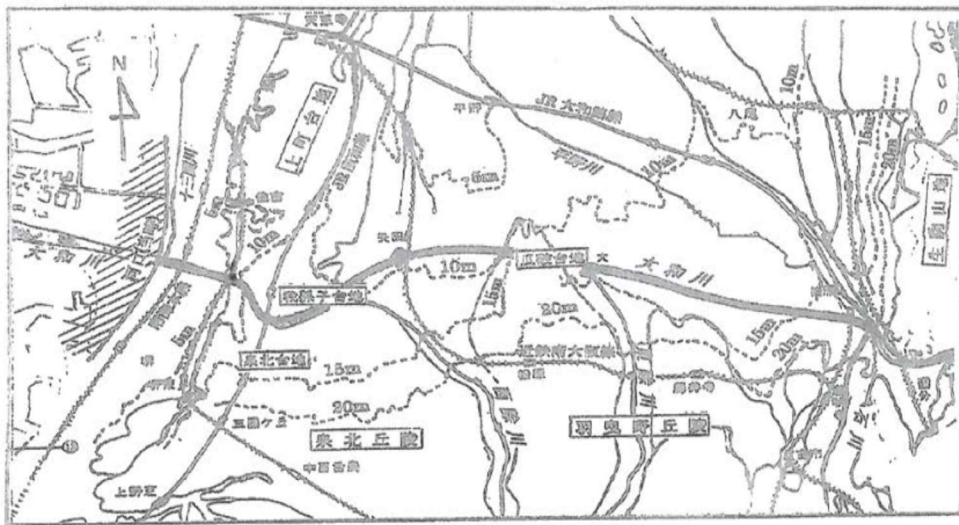


図 5.3.2 新川と等高線

図-3

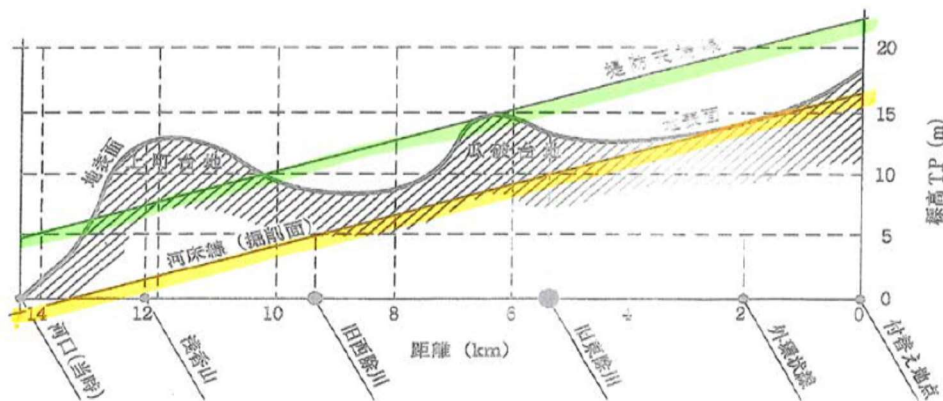


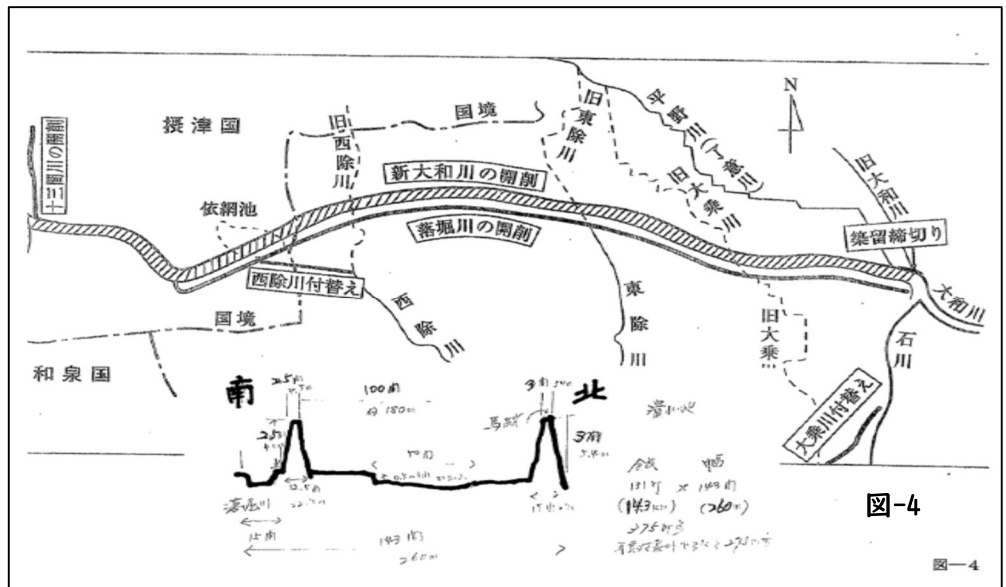
図 5.3.3 地盤高と新川の縦断面

鍬初めから数えて224日(7ヶ月半)のことであった。(姫路藩は3年要すると考えていた)

- ・工事に要した人数は延べ約245万人、費用は幕府が約37千両、諸大名が34千両負担した。現在の価格に換算すると、1両20万円で142億円。245万人に日当1万円と考えれば245億円となる。
- ・幕府の負担した費用は、後の新田地代収入でそっくり補填された。

《工事設計内容》

- ・新川のルートとして四つの計画案が残されており、大別すると柏原から西北にとり東住吉から西か南西に向かうコースと、柏原から瓜破台地の北を迂回し依網池を通過して浅香の浦に向かうものであり、後者が実施案となった。
- ・勾配は地盤高と新川の縦断面で分かるように付け替え点の標高16mから距離14kmの間で標高0m以下にするには約1000分の1となる。
- ・堤防は堤防天端線より高い所(瓜破台地と上町台地の2ヶ所5.5km)は掘削し、低い所3ヶ所(8.8km)は盛土をした。(新川の等高線と縦断面図 前頁図-3)
- ・川幅は従来の大和川の流水断面積を参考にして100間(180m)
- ・堤防は当初(後年嵩上げした)右岸(北堤)高さ3間(5.4m)馬踏3間(5.4m)堤敷15間(27.3m)。左岸(南堤)高さ2間半(4.5m)馬踏2間半(4.5m)堤敷12間半(22.5m)とされた。



これは新川の地形が南高北低となっていることと流路が北方向へ曲がり右岸に強い水勢が当たるため。

・川底は河床線に添って掘削した。掘削断面は川幅100間にわたって均一に掘られた

のではなく、中央部の50間が0.5~1間の深さに掘削された。(付替え施工位置と横断面 図-4)

《付帯工事》

- ・横川となる新大和川によって左岸地域から北流していた河川や水路が、すべて遮断されることに成り、水損場が発生する恐れがあった。この対策として新川左岸の堤防下に南部地域からの悪水を受ける排水路「悪水落シ堀」が設けられた。上流の船橋村から下流の浅香山谷口に至る121町(13.2km)川幅15間(27.3m)の落堀川である。
- ・新川と交差する河川のうち、大乘川と西除川が付け替えられた。西除川は直線状に北流していたが新川との合流点での水準が合わず、水位によって流れが阻害されるために途中から西の方向へ切り替えられ、落堀川にはいって浅香山谷口で新川へ合流された。
- ・平成の大改修では、常磐町2丁で合流する様に改修され、不要になった西除川に阪神高速大和川線が造られている。昭和61年(1986)から足かけ16年の歳月と総事業費447億円をかけて平成13年3月に完了した。
- ・新川によって在来の用水路が遮断されることになり、用水の取水形態が大きく変化した。旧水系の

久宝寺川と玉櫛川には用水路が設けられたほか、新川堤防には新たに左岸に 23 カ所、右岸に 39 カ所の用水路が設けられた。

最後は「付け替え工事による明暗」「付け替えによる影響」に分けて紹介します。

≪付け替え工事による明暗≫

- ・旧川筋では千年以上も悩まされてきた洪水から解放された。莫大な洪水対策費用を押さえると共に年貢増につながった。その後開発された新田の規模は新川による潰れ地の 4 倍近くになった。新田の主要産物は木綿で、河内一帯は日本有数の綿の産地となった。そして紡績業や運輸業が盛んになり、今日の大阪の発展の契機となった。
- ・一方反対派の唱えた懸念はほとんど全てが現実のものとなった。
- ・潰れ地となった地はいずれも農地として優良田であったが、代替地として与えられたのは旧川床や池床であり砂地で稲作には不向きであった。そのうえ支給された代替地が新川で分断された地の場合、舟で往来したり、旧大和川筋の土地を代替地に支給された場合など耕作に行くのに半日を費やしたりの不便さから手放さざるを得なかった。
- ・手放された土地の開発権を手に入れたのは豪商たちで、その代表的なのが鴻池新田である。
- ・新川の南側では落堀川を掘り、西除川を付け替え工夫したが大雨が降り続けると水害が発生した。
- ・新川の北側では用水源が極端に減ったので、39 カ所の用水路を設けるも早魃の被害を受けるようになった。
- ・大阪、大和間の荷物運搬船である剣先舟は旧川筋では運航が不能となり、村々の小さな井路船が通うだけとなった。

≪付け替えによる影響≫

- ・新川が運ぶ大量の土砂は堺にとって新たな洪水の発生と港の埋没衰退化を引き起こす一方で新田、新地が誕生した。
- ・享保 13 年（1728）の谷善右衛門による修復工事、寛政 7 年（1795）の吉川俵右衛門の計画による戎島南側への港の移転工事や、更に沖合へと進んだ弘化 2 年（1845）と安政 2 年（1855）の大改修が行われた。
- ・土砂はその後も河口まで運ばれ海の潮流も手伝って堺港に影響を及ぼした。
- ・南島、松屋、山本、平田、弥三次郎、塩浜、若松の 7 つの新田が明治 22 年に付け替え後、河口部に土砂がたまったことで新田と化し、港は浅くなり衰退。
- ・遠里小野や七道は潰れ地がでた上に、領土が分断された。（堺市遠里小野町と大阪市住吉区遠里小野に）
- ・五箇荘地域も分断。北花田、奥、大豆塚、船堂、浅香山は堺に、杉本、我孫子、苅田、庭井が大阪側になった。
- ・国境が変更された。大小路で摂津国と和泉国に分かれていたのが、明治 4 年（1871）の国境変更で、新川の南側は摂津国から和泉国大鳥郡に転属になった。

参考文献

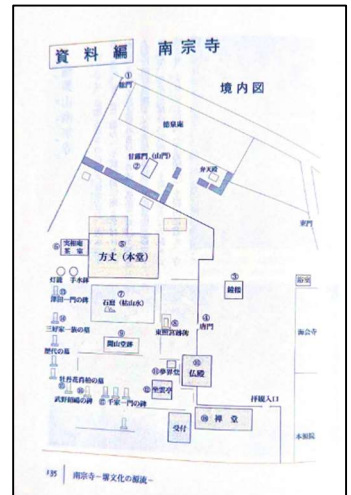
- ・大和川付け替えと流域の変遷西田一彦監修古今書院・大和川つけかえと八尾
- ・フォーラム堺学第九集中九兵衛好幸氏講演録「堺と大和川の付け替え工事」

ガイドの豆知識① 南宗寺の建物の二重構造について

【山田 武彦】

「南宗寺本坊は大坂夏の陣(慶長20年、1615年)で焼失し、早速復興に着手し元和2年(1616年)に現在地に仮堂を建てたと言われています。(堺市博物館資料)この大坂の陣の前から焼失時、そして復興の時代に南宗寺の住職を務めていたのは、かの有名な沢庵和尚です。(慶長12年、1607年から住職、前掲資料による)ところが、この焼失後、南宗寺に未曾有の大問題が起こります。すなわち寺地の移転です。宿院町東から現在の南旅籠町に移転を余儀なくされました。しかも新しく計画された街区は「元和の町割り」と呼ばれ碁盤の目のように整然と作られています。町の南北軸を東へ45度傾けての境内図 碁盤目状です。沢庵和尚の復興の考えは、あくまで南宗寺を創生期の姿に戻すことでした。

しかし、寺地を替えられ、町筋の方向を変えられ、どうして創生期そのままの南宗寺を復興出来ませうでしょうか。そこで沢庵さんは「寺地を替えられたのはどうしようもない。だけどせめて寺の向きだけは室町時代のようにしよう。替えられた場所で室町時代を再現しよう」と考えました。これが現在の南宗寺です。(右の堺学第三集よりの境内図をご覧ください)



総門はじめ2、3の建造物は元和の町割りに沿いながら本堂、仏殿は真南、真東に向いています。このように南宗寺は2重構造になっています。沢庵和尚は堺奉行に逆らったのです。文化財特別公開時の南宗寺は何事もなかったように秋の盛りです。堺の町中とは思えないほど静かで、秋を満喫できますが、その昔、『フォーラム堺学第三集』135頁より堺奉行と沢庵和尚のせめぎ合い、町衆の夏の陣以前の堺に戻したいその思いが残るのがこの南宗寺です。

2022年1月号(296号)

伸庵でタイトル戦があった

【野澤 昭一】

「伸庵でタイトル戦があったのを知ってる?」と、新しい会員の何人かの人に聞いても、大方の人は知らないとの返事でした。

私たちは資料を持ち知っていて当たり前ですが、後の人々に伝わっていなければ知らなくても当然かと思えますし、少し後ろめたい気もします。

第一回開催 堺市茶室伸庵 平成9年(1997)4月10日11日 名人戦第一局。羽生善治名人(当時)対谷川浩司竜王(当時)でタイトル戦が開催されました。結果は谷川竜王が99手で勝ち、以後は東京・愛知・長崎・北海道・群馬と転戦して4対2で谷川竜王が勝ち、通算5期の名人位で永世名人になり、そのさきがけが伸庵の勝利でした。このタイトル戦開催は、堺出身坂田三吉を偲ぶ坂田三吉杯将棋大会第10回開催の記念行事として開催されたものでした。堺で初めてのタイトル戦であり、とても盛況だったと聞いています。

第二回開催 堺市茶室伸庵 平成20年(2008)4月22日23日 名人戦森内俊之名人(当時)対羽生善治二冠(当時)の第2局。羽生二冠勝ち。最終結果4対2で羽生二冠が勝ち、名人になる。昨今、若年の藤井聡太竜王・名人が大活躍して将棋界が盛況で話題も豊富です。

堺も古墳群が世界遺産となり周辺が観光で賑やかです。近くに茶室伸庵・黄梅庵がありますが、お茶の話と共に将棋のタイトル戦も交えたら如何でしょうか。(関西将棋連盟・日本将棋連盟)

*坂田三吉さんにつきましては、死後に名人位と王将位が追贈されています。



行基さん

【川辺 葉積】

奈良東大寺二月堂の修二会（お水取り）は3月1日から14日が本行。15日に満行します。この修二会の期間中、亡くなられた方々のお名前を読み上げて菩提を弔うという儀式があります。一番目は東大寺を建てた聖武天皇、二番目が天皇の母である皇太后宮（藤原宮子）、三番目は光明皇后、そして四番目に読み上げられるのが大仏建立に尽力した行基菩薩です。東大寺開山の良弁は八番目に読みあげられます。東大寺創建に関わる四人を描く「四聖御影（ししょうのみえい）」にも聖武天皇、インドから来られた開眼師の菩提僊那（ぼだいせん）、良弁、行基が登場します。



四聖御影

(左上・聖武天皇 右上・菩提僊那)
(左下・良弁 右下・行基)

みなさんが目にする行基さんは剃髪した老僧の姿だと思いが、中区八田寺（はんだいじ）町の華林寺（蜂田寺（はちたでら）・花林寺（かりんじ））には鎌倉時代に描かれた13歳の姿が伝わっています。華林寺では毎年、行基さんの命日の旧暦2月2日に近い日曜日に「御影供法会（みえくほうえ）」を行います。今年は2月19日で、法要時には13歳の行基さんが描かれたお軸が飾られます。現在はレプリカですが、本物の「絹本着色 行基菩薩十三歳像」は奈良国立博物館に寄託されていましたが2018年に堺市博物館に里帰り展示され、翌年堺市指定有形文化財になりました。出家は15歳なので十三歳像は垂髪で袈裟を着けた少年の姿です。なんとも気品のある美しいお顔です。

現在住職不在の華林寺ですが檀家の役員さんたちに守られて維持されています。

寺の門には「行基菩薩御母堂生家」と書か

れています。行基さんのお母様は蜂田古爾比売（はちたのこにひめ）。近くにある蜂田神社（お鈴の宮）ゆかりの豪族蜂田連（はちたのむらじ）の一族で蜂田首虎身（はちたのおびとらみ）の娘です。平安時代の華林寺は一切経を備えた大きな寺院でした。天野山金剛寺の一切経の一部には華林寺の書写であるという記録も残っています。寺から約2km南東にある中区原池公園体育館がある住所は八田寺町です。今はこじんまりした八田寺町ですが、昔はこの辺りまで八田寺が支配していたのかもしれませんが。寺は大坂冬の陣の兵火で焼失後1679年に再興され現在に至ります。お寺では珍しい二重屋根です。行基さんが入寂した奈良市菅原町の喜光寺では3月2日に「行基會大祭」があります。堺の華林寺でも毎年「御影供法会」が続くことを願っています。

偉大な行基さんが堺で生まれたということ、たくさんの人に知ってもらいたいです。



行基十三歳像

《ディープな堺勉強会 最終回》

⑤ Sacay ベイエリア探訪ウォーク

【川上 浩】

水のあるところ人が集まる、人が集まれば町が活性化する。観光視点で考えると水際を利用することが重要なことと感じています。日本全国を見渡すと、倉敷、近江八幡、大阪、博多、小樽、岐阜、新潟……。全国津々浦々、水のある所に人が集まります。世界に目を広げても同じ傾向です。さて堺なら環濠復活？分かっていても、なかなか進みません。



そこで堺旧港ベイエリアをご案内して、歴史の息吹を感じていただくことが肝要です。観光ガイドは、ありきたりのことではお客様の満足度が上がりませんので、頭の中に豆知識を集合させて、広角的に楽しくご案内したいものです。堺駅前のロータリーの名前は何故、吾妻橋？鉄道が出来た時の駅名が「あづまばしステーション」だったから？傍に「吾妻橋」があるから。正解かもしれません。でも吾妻橋は東京のスカイツリー地域と浅草寺地域を結ぶ観光名所のブリッジ、出来たのは数百年前です。では、なぜ堺に吾妻橋があって誰が名付けたのか。吾妻橋の近くに「吉川俵右衛門屋敷跡」の碑があります。堺港の修築に功績のある、江戸の材木商だったこの方の江戸屋敷跡が吾妻橋の傍らにあります。関係ありそうですね。

堺旧港の観光スポット旧堺燈台、まずは燈台と灯台の違いは？堺燈台とは建造物としての正式名称、堺灯台と書くと堺に立っている灯台という意味。「日本最古の現地に現存する木造洋式燈台」(1877)とご案内しています。日本最古を付けるとこのようになってしまいます。最古の灯台は遣唐使船の目印の篝火(839)、最古の建設は住吉大社の高灯籠(鎌倉時代)、現地に現存する最古は明石港の旧燈台(1657)、最初の洋式は観音埼燈台(1869)、最古の木造は石川県福浦燈台(1876)です。さらに埼と崎の違いや、堺燈台の作り方や民衆の力や全国の灯台との違いなど全てを話していると夕陽の絶景が見えてしまって、さらに時間切れになるので終了予定時間は厳守することを心がけましょう。



吉川俵右衛門屋敷



大浜公園の擁護璽

大浜公園内に擁護璽があります。この石碑は安政南海地震(1854.12.24)の被災後に建立(1856.7)されました。堺では一基のみの自然災害伝承碑です。一等三角点、ラヂオ塔、当時東洋一と言われた博覧会附属水族館(堺水族館の前身)が建設され明治天皇が同年5月5日に水族館を御巡覧(1903.5.5)されたこと、大阪窯業煉瓦工場(この場所ではない)跡などをご案内すると堺の近代史が垣間見えます。樺太犬タロ・ジロ慰霊像なども、お客様の年代によっては、反応が大きいスポットです。

堺市西区歴史探訪

【田辺 謙二】

私は堺区の南のはずれ、西区との境界近くに住んでおります。西区には多くの歴史的建造物があり、地元の皆さんに手厚く保護されています。

例えば、日本武尊や大鳥連祖神を祭神とする大鳥大社、蛭子の命（恵比須様）が初めて上陸した石津川河口付近に建つ石津太神社、また、古墳時代に仁徳天皇陵古墳よりも先に築造されたとされる乳岡古墳、そして、行基菩薩生誕地として知られる家原寺など、堺区以外でまち歩きを楽しみ、そして歴史に浸るには打ってつけのエリアと言えます。

今回は乳岡古墳と石津太神社を紹介いたします。

乳岡古墳は、古墳時代（4世紀後半）に百舌鳥野の南西部に前方後円墳の形状で築造され、周囲に約30m幅の濠を巡らせていました。しかし、その濠は埋められ前方部も削られて、現在は後円部のみ残されています。近接して神石小学校がありますが、かつての悪ガキ曰く、「昔は山の周囲にはフェンスなどなく、一日中、虫捕りをして遊んでいたなあ！」と。昭和47年の古墳確認調査で石棺が発見され、埋め戻されています。乳岡古墳は子どもたちの成長をこれからも見守り続けてくれるのではないのでしょうか。



乳岡古墳



石津太神社の蛭子の命（恵比寿様）

鳥居とともに堺市の有形文化財に指定されています。しかし、近年老朽化が顕著になったため、昨年より修復工事が行われ



修復工事後の石津太神社の拝殿

石津太神社は、延喜式内社で紀元前469年に創建されたと伝えられ、我が国最古の戎（恵比須）社と言われております（写真）。毎年12月14日には、泉州の奇祭「火渡神事：やっさいほっさい祭」が行われますが、昔、蛭子の命が石津川河口付近に流れ着いた時、漁師たちが薪の火を焚いて暖めて迎えたという伝説になった祭りです。素足で火のついた薪の上を歩く、なんとも勇壮なお祭りです。拝殿は寛政末年に創建されたものであり、本殿、

鳥居とともに堺市の有形文化財に指定されています。しかし、近年老朽化が顕著になったため、昨年より修復工事が行われています。今年の「やっさいほっさい祭」には、竣工した麗かな拝殿を見せたいと思います。



やっさいほっさい祭

魅力てんこ盛りの美原区③ 美原八景

【岡崎 形成】

美原区八景として、チラシが配られていました。1 法雲寺 2 広国神社 3 平松寺 4 みはら歴史博物館 5 黒姫山古墳 6 丹比神社 7 菅生神社 8 鍋宮大明神

そのチラシの1つで、「知る人ぞ知る」法雲寺を案内します。法雲寺の前身は弘法大師の創建と伝えられる長安寺で、七堂伽藍が完備した真言宗の大きな寺院でしたが、元和6(1620)年に狭山池の堤防が決壊し、ことごとく流失して廃滅しました。寛文11(1671)年、僧宗月が霊夢を見て地中から観音様を掘り起こし、草庵に安置して多くの人々の信仰を集めていましたが、翌年、黄檗宗三傑の一人、慧極道明禅師によって、寛文12(1672)年に開山された禅宗の一派黄檗宗の本山格のお寺で1万坪の境内には山門、天王殿、大殿、開山堂、耀先殿、方丈、鐘楼などがあり、建築当初の伽藍構成を今に残し、大殿には3,333体の仏像が金色に燦然と輝き安置されています。お盆の8月15日の万灯会には、万物の霊に灯火をささげ無病息災を祈る伝統行事で願いを込めた千基にのぼる灯籠にろうそくがともり、境内に幻想的な雰囲気をもたらします。近くの人々は「ほんじんさん」と呼び、盂蘭盆施餓鬼法要は「ほんじんさんまいり」と言われ親しまれています。

また、市の花木であるツツジの名所としても有名で、広い敷地に1,000株近くの赤、白、ピンクのツツジが咲き、見頃の4~5月には1日1,000人以上の人が訪れ、その景観は「花咲けばツツジの海」と言われるほどの豪華絢爛です。

2017年1月号(236号)

魅力てんこ盛りの美原区④~美原区域の中世の城砦

【江川 栄一】

この記事を書くにあたって、周辺地域を歩き廻っていたところ、「平尾城址」の石碑に出会った。場所は美原区平尾の太成学院大学の近くである。

「平尾(ひらお)城」は1332年に楠木正成が築いた城塞で、別名「ねはん城」とも呼ばれている。1382年に正成の三男、正儀が北朝方の山名氏に敗れ、1388年にその子正勝が足利義満を攻撃したが、逆に山名氏清に討たれた古戦場に建っていた。今は石碑が一つたたずむだけだが、悲劇の武将を今に語り伝えている。鎌倉時代の終わりから南北朝時代にかけて、美原には様々な城が造られた。天守閣を持つ大規模な城ではなく、防御のための木の柵や土を盛り上げた土塁を築き、簡単な住居が建っている程度の城である。



●「余部(あまべ城)平地の建物の周囲に濠をめぐらした城館である。余部地区には、今も「城ノ山」「城ノ前」などの字名が残っている。

●「城岸寺(じょうがんじ)城」楠木氏の一族である和田和泉守が居城を構えた、別名「大饗城」とも言う。1351年に楠木正儀が北朝方と戦った古戦場である。周辺には「城ヶ池」「城ヶ岸」「城ノ北」などの地名が残っている。

●「丹南(たんなん)城」南北朝時代に黒姫山古墳は城砦として利用されていた。

●「徳専寺(とくせんじ)城」織田信長の河内攻めによって破壊された城で、美原区多治井にあった。室町時代から戦国時代にかけて、美原には城塞・城砦とされる場所が多く点在しており、中世動乱期の南河内における歴史舞台の一地域であったことがわかる。

『幻の陶器の里』ご紹介 ①陶工の首長の墓 湯山古墳 【小川 正夫】

『幻の陶器の里』の観光資源としての魅力を、勉強会に参加されなかった会員の皆様にも知っていただきたく、ご紹介の連載を始めたいと思います。初めにご紹介するのは、消滅してしまった幻の陶工首長の前方後円墳です。

渡来系の新技術をもった陶工氏族が、大和政権の保護を受ける特別な氏族であったことは、大和政権から認められた豪族にだけ許された前方後円墳が、陶工の首長たちの墓に多くみられることから明らかでしょう。その陶工氏族のなかでも、最高位の首長の墓と思われる前方後円墳が「湯山古墳」です。陶工氏族の数多い「群集墳」という墓域ではなく、「陶邑」全体を見下ろす湯山と呼ばれた山の頂に造られ、考古学者の森浩一先生によれば「全長 30m 以上の横穴式前方後円墳で、羨道長 3m、天井石に覆われた 4m の玄室の中に家形石棺が安置されていた」と記録されています。陶邑の陶工達が仰ぎ見る山頂に祀られ、他に類を見ない豪華な石室・石棺を備えていることから、その被葬者が特別な存在であったと思われる。



残念ながら昭和 30 年代の土砂採取のため古墳破壊が進んだ時期に、この古墳は湯山もろともに破壊され、山頂の石室も崩れ落ちてしまいました。堺市博物館（中庭に面した側室）には、現地から採取された一片の石片と、レプリカですが全長 2m の立派な組合式家形石棺が展示されており、被葬者の権威が偲ばれます。



しかし、崩された湯山の跡地に、昭和 36 年に建てられた十川ゴム堺工場に、その石室、石棺の破片と思しき古石群が大事に保存されていたのです。観ボラ南地域の会のメンバーと十川ゴム様を訪問し、実物を拝見させて頂きましたが、その大きさと多さに驚かされました。十川ゴム様にとっては、この石組は工場の護り神で、工場建設の際に事故が多発し、工期の遅れが心配された時、残されていたこの石群をお祀りしたところ、事故は収まり

無事工期通り完成したとのことで、未だに工場の安全稼働祈願の為に毎月の礼拝が続けられているとのことです。

また、湯山の麓の溜池に挟まれた「陶の里広場」には、湯山古墳を偲ばせる前方後円墳のレプリカが造られています。

消滅してしまった古墳遺跡が、現代にまで神の石として大事に保存されていることに、陶器の里の歴史のロマンを感じますね。



※十川ゴム様のご許可なしに拝観することは不可ですので、ご注意ください。

土居川公園の地下へ行って来ました

【松井 彰夫】



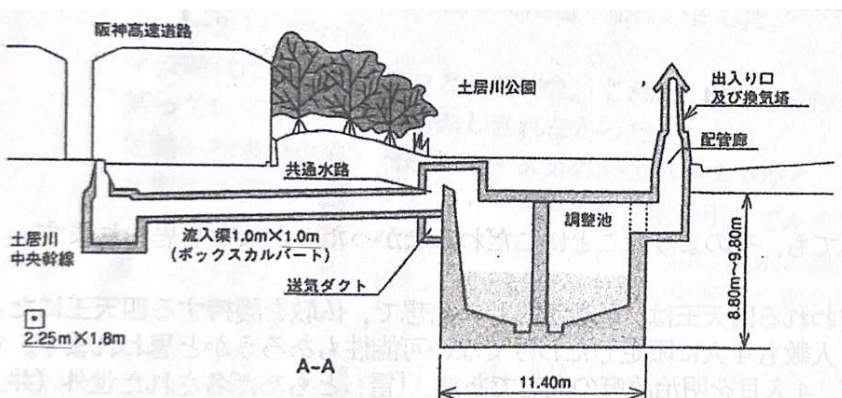
配置に就く時などよく通る土居川公園、櫓のようにも見える換気塔の地下部分には地域浸水防止用の大きな貯水池があると以前より話には聞いていた。公園を通る度に見てみたいと思う気持ちが、今かなえられた。堺市の調整池と下水ポンプ場見学の機会を今回与えていただいた。堺市産業振興局観光部坂本部長のお計らいで、11月27日午後、堺市上下水道局職員の方々の案内で南向陽調整池(土居川公園地下)、窪田池調整池そして浜寺下水ポンプ場を見てきました。堺市では昭和57年の豪

雨で約120haの広範囲に渡る浸水、このうち土居川中央幹線沿い(土居川が阪神高速道路設置のため暗渠になった部分)は急速な都市化に伴う浸水常襲区域で、この日も約20haの地域で床上、床下浸水が発生した。これを契機として、浸水防止に速効性の高い雨水調整池の建設に着手し、平成元年3月に南向陽調整池は完成。集中降雨で土居川暗渠の水位が上昇すれば、6箇所の流入渠から調整池へ自然流入し、浸水を防ぐ構造で、流入した雨水は南島下水ポンプ場の監視室で、暗渠の水位低下とこの地域での浸水の心配がないことを確認してポンプで排水(遠方監視制御システムで)するとのこと。今回のために設置された数個の裸電球と懐中電灯の明かりを頼りに階段を降りて行く。真暗な巨大な換気塔(5箇所)間が広がる。高さ8.8m~9.8m、幅11.4mで最大貯留能力15,000 m^3 。



最近、阪神高速道路出入り口及び換気塔 土居川公園は雨が降らなかったため水は溜まっていない。ドブの臭いがするのではとの先入観があったがほとんどせず、むしろ変な清潔感さえした。「ここが満タンになった(配管廊 共通水路 調整池 流入渠1.0m×1.0m 土居川中央幹線 送気ダクト 8.80m~9.80m

2.25m×1.8m A-A)のは平成20年9月の93.5mm/時間のとき。機能として一般的に50mm/時間までの降雨に十分対応出来るように設計されているが、道路の舗装化などが進み都市の保水能力が弱まり、このような設備の拡充が言われている。各家庭でも雨水を一旦貯めて植木の散水にでも使ってもらえれば上下



水道にとっても非常にありがたい」と職員からのお願いも。窪田池調整池は最近の完成で新しく、最大容量16,500 m^3 。中百舌鳥・長曾根区画整備計画の一環として狭間川流域の洪水対策として設置。浜寺下水ポンプ場は石津川南側の土地の低い地区315haに降る雨水を6台のポンプで大阪湾に強制排水。その内の3台は25mプール1杯分の水を1分間で排水する能力があるとか。とにかくデカイ。

寺山南山古墳現地説明会に参加しました

【細谷 利晶】

12月4日(土)履中天皇陵古墳の陪塚とされる寺山南山古墳の発掘調査報告会を見学して来ました。

この古墳は5世紀初めころに築造され、長辺44.8m、短辺36.3mの2段築成の方墳であることが判明しており、平成26年3月に史跡百舌鳥古墳群の1基として、国の史跡に指定されています。28年8月からの発掘調査で、この古墳の葺石や埴輪列、濠を確認し、さらに東辺に造り出し(幅約9.5m、長さ約3.6m、高さ約0.9m)があったことが明らかになりました。百舌鳥古墳群で方墳に造り出しのある例が今回初めて確認されました。造り出しは仁徳天皇陵古墳等、大型の前方後円墳で見られますが方墳で造り出しは珍しいそうです。

造り出しは1段目斜面に接しており、テラス(1段目斜面と2段目斜面の間に設けた平坦面)より約0.3m下がった位置に平坦面を設け埴輪が並べられており、斜面から円筒埴輪や形象埴輪とともに須恵器や土師器の破片が出土しています。また、造り出しが接する南側のテラスには、大型前方後円墳で見られる冴形埴輪(かこいがた



はにわ・柵状の形状をした埴輪)の中に家形埴輪を配置したものがあり、北側のテラスには土師器の小型丸底壺が置かれていることがわかりました。これらの遺物から、造り出しからテラスの範囲で形象埴輪と土器を用いた祭祀(儀式)を行ったと考えられています。

北辺では「周濠」「1段目斜面」「テラスに並べられた埴輪列」が、西辺では「テラスに並べられた埴輪列」と「2段目斜面」が確認され、斜面に葺石を、テラスに礫を敷くことで古墳の表面を覆っている、墳丘高が56m程度の低い古墳であった可能性が考えられます。また、北辺の周濠(約6m)、東辺の周濠(約9m)、さらに、西辺のテラス約1.7m、東辺のテラス(約2m)とそれぞれの幅が異なっており、これらの法量の違いは、造り出しを設けるスペースを確保するためと祭祀を行うために、濠やテラスの幅を広げる必要があったことが理由と考えられているとのことです。

今回の発掘調査の成果としては、履中天皇陵古墳の陪塚で方墳の寺山南山古墳に造り出しがあり、形象埴輪や小型丸底壺がそのままの位置で出土したことで、巨大古墳の陪塚における祭祀の一端が明らかになったことです。今後、寺山南山古墳は堺市により復元・整備され、数年後には公開・立ち入り出来るそうです。百舌鳥古墳群では数少ない立ち入り出来る古墳にコーフン(興奮)です。

2021年4月号(287号)

堺唯一の総理大臣 鈴木貫太郎さんと私のまち久世(くぜ)【杉本 信子】

私は中区檜葉に住んでいます。子供たちは久世小学校で学び「くぜっ子」と呼ばれていました。隣町の伏尾には太平洋戦争終結時の総理大臣「鈴木貫太郎誕生之地」と記した古い石碑と「久世関宿藩(せきやどはん)代官所跡」の案内碑が建てられています。そこから南へ20分程歩くと多治速比売(たじはやひめ)神社に着きます。鈴木氏揮毫の「敬神崇祖」の扁額が神社参集殿に残されています。境内の末社の一つ稻荷社には氏の名を記した玉垣があります。鈴木氏の生涯や関宿藩との関係・久世の由来を調べたく存じました。堺の内陸部の開発は江戸時代元禄期以降ですが、17世紀後半には東山・伏尾・檜葉・向山(小阪)に新田が出来ます。宝永2年(1706年)当時徳川幕府の若年寄であった下総



の関宿藩主久世氏の知行になります。

関宿藩は関宿城（千葉県野田市）を本拠とし譜代大名の久世氏が治めていましたが、この泉州にも約一万石の飛び地（和泉大鳥郡・泉郡 29 村）を得、明治 2 年迄統治しました。（明治 22 年、関宿藩領であった小坂・八田東・和田・平井・東山新田・伏尾・檜葉新田が合併して久世村となります。村名は久世氏の名を拝借したそうです）



慶応 3 年（1868 年 1 月）鈴木氏はこの地での最後の代官・鈴木為輔（ためすけ 由哲）の長男として久世家伏尾陣屋で生まれました。（この日に鳥羽伏見の戦いが勃発。お七夜には大阪城の火薬庫が大爆発、その振動で生家の障子がはずれたそうです）為輔は寛仁さで領民に慕われていました。維新後、鈴木家は関宿に移り、貫太郎は海軍軍人の道を歩みます。（貫太郎少年の幼少期のあだ名は「泣き貫」、悲しい時辛い時情けない時には全身で泣く子供でした。両親は心優しい彼を医者にしたかったのですが、海軍に入り外国へ行きたいという強い希望をしかたなく認めます）「長の陸軍・薩の海軍」の中で、賊軍出身の鈴木は「水雷戦術に鬼貫太郎あり」と認められるまでになり叙勲も受けますが、36 歳の時、人事に怒り堪忍袋の緒が切れ、海軍を去る決意をします。その折、決意を覆させたのが父からの手紙でした。再び国への忠誠を誓います。その後は連合艦隊司令長官・軍令部長と昇進します。

昭和 4 年、62 歳。天皇の希望により侍従長に就任。これを機に伏尾の中辻氏が「誕生之地」の石碑を建之（けんし）しました（前頁の写真参照）。朝、宮中に出勤する時は必ず「お母さま、行って参ります」帰れば「只今帰りました」と座って手をつき、高齢の母に挨拶される方でした。天皇からは厚い信任を受けますが、一方では「君側の奸」と思われ命を狙われます。

昭和 11 年 2 月 26 日、陸軍の一隊が官邸を襲撃（2・26 事件）。鈴木も 3 発の銃弾を受け倒れますが、夫人の必死の制止でとどめを免れます。奇跡的に生き延びた氏は昭和 12 年、生地鎮座まします崇敬の念深い多治速比売神社に参拝。玉垣は大正 12 年奉納したものです（右写真参照）。九死に一生を得たのはひとえに神仏のご加護によると自伝に記しています。



昭和 12 年
多治速比売神社をご夫妻で参拝

昭和 20 年 4 月、天皇の強い要請を受け総理大臣に就任、77 歳です。沖縄陥落・東京大阪への大空襲・広島長崎への原爆投下、連合艦隊壊滅・ソ連の満洲侵攻など内外共に悲惨を窮めた状況でしたが、徹底抗戦・「一億玉砕論」が渦巻いていました。鈴木は平和を希求する天皇の強い意志を受け「聖断」による終戦に持ち込みます。

8 月 14 日、終戦を閣議決定。天皇自らが詔書を読みあげられ録音した玉音放送を阻止しようとする叛乱が起こり、鈴木は自宅を焼かれますが、ほうほうの体で逃げ延びました。（この時、消防団は駆けつけますが、「国を売った首相の家に水をかける義理はない」とメラメラと燃える家を眺めていたそうです）昭和 20 年 8 月 15 日正午、玉音放送がながされ国民は終戦・敗戦を受けとめます。その日の内に鈴木内閣は総辞職。昭和 23 年 4 月、関宿にて鈴木貫太郎氏は 80 歳の生涯を閉じられました。

久世の名のもと地車祭・運動会・敬老会などが催され、私も参加させて頂いております。鈴木氏のようなすばらしい方と少しでもご縁があったこと、嬉しく存じます。

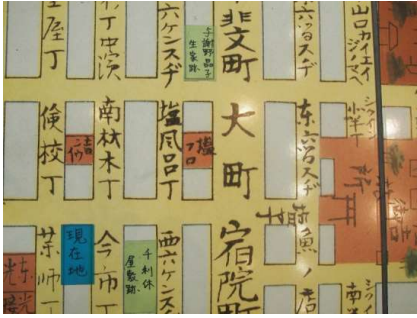
参考文献

『久世関宿藩代官所跡と鈴木貫太郎』
『聖断』 半藤一利 PHP 文庫

久世校区まちづくり協議会
『平井ふるさと昔話』 平井歴史懇話会

堺の塩湯(潮風呂)の起源から現在まで

【土井 健一】



利晶の杜大絵図文久3年(1863)塩風呂丁

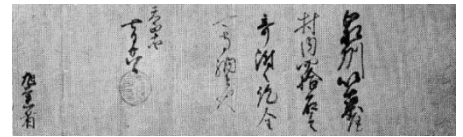
堺の塩湯は古くからの長い歴史をもちます。

最も古い堺の塩湯の伝えは、約1330年前に、行基菩薩が掘られた井戸中に、自ら彫られた薬師如来石像を祀られると付近の井戸は真水が湧いているのに、こんこんと塩水が湧き出て、この霊水を焚き浴すると諸病が平癒すると大変評判で遠近より多くの人が集まった事に由来します。



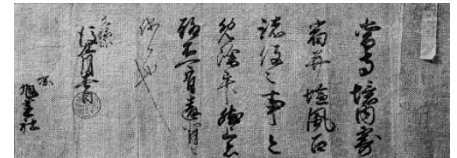
薬師仏石仏像

塩湯は、潮風呂とも呼ばれていましたが、行基井戸の潮風呂は、大町西裏町(塩風呂丁)(現在の和食さと宿院店北側辺り・利晶の杜ロビー床大絵図参照)にあったが、この土地が後に豪商八万貫屋宗徳、妙徳夫妻の所有となっていた。ところが文亀2年(1502)正月3日の妙徳の夢の中に毘沙門天が現れて、このような霊験あらたかな井戸を個人で所有していると井戸は涸れると云うお告げを蒙って、妙徳は驚き、早速その塩風呂と宅地とを旭蓮社に寄進し、旭蓮社 薬師佛石像當寺別に寺域に毘沙門堂を造立して、弘法大師の作と伝える高さ六寸の毘沙門天の尊像を安置し祀りました。毘沙門堂は戦災を免れ現存します。



豊太閤御朱印状 稲田四十石寄付 旭蓮社蔵

平安時代、堺の塩湯は歌人、藤原定頼(さだより)権大納言中古三十六歌仙の一人の歌集 寛徳2年(1045)『権中納言定頼卿集』に歌に詞書(ことばがき)して「九月ばかりさか井と云所にしほゆあみにおはしけるに ひめぎみの御もとに」と題して「すみよしのながみのうらもわすられて 都へとのみ 急がる哉」と詠まれていることから、平安時代の藤原氏の盛んなころ京都から公家達が、「さか井」に塩湯浴にやって来ていたことが解ります。



豊太閤御朱印状 塩風呂諸役免除 旭蓮社蔵

豊太閤秀吉公も有馬入浴の帰りに、この毘沙門堂に参詣し、この塩風呂に浴すると、噂の如く皮膚病によく効いたので、早速、天正18年(1590)石田隠岐守正継(まさつぐ)(三成の父)に泉州築尾村において稲田四十石の御朱印状と、入浴規定を作り塩風呂諸役免除の御朱印状を旭蓮社に下賜しました。(御朱印状は旭蓮社に現存) 明治45年(1912)、阪堺電気軌道が自社線への乗客誘致策として、大浜公園地に堺市公会堂を建設し、翌大正2(1913)には、コテージ風の大浜潮湯が開業しました。隣接の多くの料亭旅館にも潮風呂が設置され賑わいましたが昭和9年9月の室戸台風で壊滅的被害を受けます。幸いに遺った大浜潮湯別館は高名な建築家辰野金吾設計で、翌年昭和10年河内長野に移築され南天苑本館(国登録有形文化財)として現存します。堺市の塩湯として今では、堺区出島海岸通りの湊潮湯がわずか一ヶ所残り頑張っています。



住吉・堺名所并豪商案内記 大町夕風

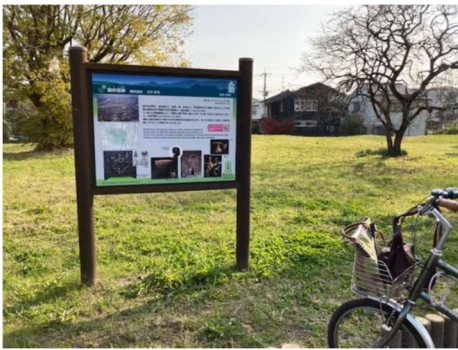
参考文献) 山田智旭『本朝廬山旭蓮社-今と昔-』旭蓮社 三善貞司『大阪伝承地誌集成』清文堂
堺市『堺市史 第七巻(別編)』衣笠一閑 『堺鑑』文台屋治郎兵衛
川崎源太郎『住吉堺名所并豪商案内記』 南谷新七

石器時代、堺に人がいた！「南花田遺跡」

【柿澤 和代】

昭和62年4月25日、読売新聞朝刊一面のトップ記事！！

「日本列島で最古最大の旧石器時代の集落跡が24日までに大阪府堺市の南花田遺跡で見つかった。発掘した府教委文化財保護課によると20万年前までにできた『大阪層群』と呼ばれる地層に形成されており『国府（こう）型ナイフ形石器』出現期（2万2千年前）までさかのぼる。面積は1万平方メートルを超え、炉付き住居跡など3戸、石器の制作工房跡2基を含む多数の遺構が出土。石器もあらゆる種類の2,500点以上が見つかった。（中略）この村の出現は後期石器時代を代表するといわれる国



旧国府（こう）遺跡 藤井寺市
大和川と石川合流地点にある遺跡

府型の文化の発生の謎に迫り、旧石器人たちの生活を解明する画期的発見といえる」この遺跡は大泉緑地の北側、府道南花田鳳西町線の建設で事前調査されていたものであるが、このニュースに接したとき、日本列島に人が住みつき、わが町、堺にも縄文以前、石器時代から人々の営みがあったのだと思うとワクワク感が止まらなかった。南花田の取材ではこの遺跡あとを必死に探し求めたが、道路下に埋め戻されたか看板すらなく、まったく痕跡をとどめていなかった。残暑の厳しい暑い日だった。おそらく、このあたりであろうと思われる場所にそびえたつ鉄塔を見上げながら、2万2千年前に思いを馳せる。

この頃はウルム氷期と呼ばれ、日本列島は大陸とは陸続きであった。マンモスやナウマンゾウ等の大型獣を追って、人々は日本に渡ってきた。当時の大阪や堺は現代の札幌ぐらいの気温だったらしい。氷結の為、海水面は数百メートル低くなり、大阪湾や瀬戸内海は陸地化され狩猟生活を営んでいた。南花田遺跡のすぐ近くには「おかりば公園」と名付けられた先人が狩りをしていたであろう場所が公園名として残っている。

私たちの住む堺、太古にどのような地殻変動が起きたのであろうか？毎日仰ぎ見る金剛・葛城山脈は、大阪側にはなだらかな山容を見せながら奈良側は急峻だ。反対に生駒山脈は奈良側にはゆるやかな傾斜を描くが、河内平野に対しては急傾斜にそそり立つ。両山脈には逆の地殻の圧力がかかったのであろう。その接点にある二上山、相反する地殻の圧力を受けながら、のたうち、くねり、マグマを噴き出しながら活発な火山活動をしたであろうことが想像される。そこからもたらされた貴重な岩石、良質な石器の材料、サヌカイト！二上山は太古の昔から、その秀麗な姿だけでなく人々に生活の用具としての貴重な材料を提供してくれていた山だと思うと胸が熱くなる。



旧石器人のアトリエ羽曳野市 翠鳥園
二上山から採集したサヌカイトの石器工房

2000年11月5日、自ら拾い集めた石器を土中に埋め旧石器時代を捏造したスキャンダルが報じられ、考古学界が一時地に落ちた感があった。あの事件を乗り越え、いまでも真剣に考古学に取り組んでいる方々がいることも忘れてはならない。気の遠くなるような地道な作業の繰り返し、どの遺物も過去からの伝達物として小石であろうが木片であろうが大切に大切に扱う姿。日本の原形を追い求めている人々の地道な活動と信念にエールを送ろう。遺跡が発見されるたびに華々しい報道のされ方をするが、往々にして旧遺跡は新しい開発事業が発端となって発見されることが多い。遺跡・遺物を通じて祖先の足跡をたどり、復元されるもよし、新しい時代の人がある新しい営みをするのもよし。私たちが暮らしている土地の土層の中には、まだまだ発見されていない未知の遺跡が眠っているのかもしれない。その土地土地に眠る歴史の声なき声、染みついた記憶。記事にできたら写真で浮かび上がらせ、スケッチで描き残せたらと・・・そんなことを思い起させてくれた南花田の取材であった。

私の「推し」 里程碑(りていいし)

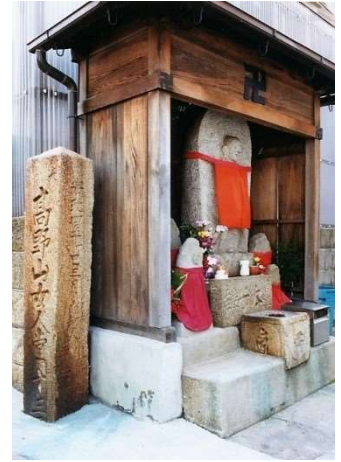
【土山 裕美】

高野街道・堺～河内長野 街道歩きの旅会員の皆様ならよくご存知の堺区榎元町に建つ「十三里石」。西高野街道の起点である大小路と高野山女人堂を結ぶ道中に、ほぼ一里間隔で建てられた里程碑の一つです。側面には「安政四年」の刻字が。なんと160年以上も風雨にさらされながら同じ場所で佇む石。その表面は茶色く、縦じわのような筋が何本もついています（明日のわが身のように・・・）。初めて出会った時には愛おしささえ感じて思わず撫でてしまいました。傍らのお地蔵さんにも合掌。ずっと見守ってくれているのですね。

茱萸木村(くみのきむら、現大阪狭山市)の農民、小左衛門と五兵衛が発起人となり寄付を募り、わずか8ヶ月あまりで建立したとのこと。彼らの熱い志に胸打たれます。里程碑は設置された13基すべてが現存していることにも驚きです。(市内では東区関茶屋に十二里石)

すぐ西には市役所庁舎がそびえる住宅地の中で十三里石だけが時が止まったかのよう。

里程碑周辺には榎宝篋印塔や向泉寺閼伽井跡などおなじみの歴史スポットがあります。しばらくご無沙汰してるなあと思われる方、お正月休みに近場でタイムトリップしてみませんか。



おわりに

皆さんは観ボラに入会する前から、仁徳天皇陵古墳の墳丘長の長さをご存じでしたか？千利休の幼名をご存じでしたか？与謝野晶子の実家の商売は、屋号は、旧姓は？

また、日本歴史史上最大のクーデターと言われる「本能寺の変」の時に、徳川家康が堺に居たことをご存じでしたか？線香、注染、自転車の発祥地は？私は全て知りませんでした。研修が終わり、それらがわかった時に、気が付けば私はこの堺の町のファンになっていました。そして入会後に毎月末に自宅に送られる協会ニュースを見ると、まだまだ堺には私の知らないことが、次から次へと登場してくるではありませんか。

来年は、観ボラの創立30周年記念の年です。過去の先輩が培ってきたもの、協会ニュースはそれらを克明に記録しています。先輩たちの知恵や知識がいっぱい詰まっているのです。それが消えてしまうのはもったいない、その記録をいつでも会員が見ることが出来る形に出来ないだろうかというところから、今回の別冊の活動が始まりました。

「別冊 協会ニュース傑作選」はほんの一部にすぎません。まだまだ皆さんに紹介したい話はたくさんあります。誌上に載せられなかった話はHPの中で順次、紹介していく予定で考えています。準備ができましたら皆さんにお知らせいたします。ご期待ください。

最後に、今回の傑作選の記事をご投稿していただいた協会員の皆様に、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

2024年12月
広報部 川上由